



今回の内容：7月上旬 7月下旬

- ◆ 果形や、肥大等品質のバラつきが大きい状況です。また、一部の園地では「胴サビ」が散見されます。
- ◆ 枝腐らんが多い状況です。見つけ次第切除してください。

### 【特別散布】

- **輪紋病対策**：6月25～30日頃にICボルドー412の30倍を特別散布する。ただし、早生種には散布しない。
- **炭そ病対策**：7月7～12日にオーソサイド水和剤80の800倍（前日、6回）を特別散布する。尚、散布間隔は前回の7日後とする。

### 6月末～7月上旬（定期）

\*目安：前回から15日以内

【7月上旬 定期散布】

散布時期：6月30日～7月5日

散布日： 月 日

散布薬剤：水

100㍓

散布量： リットル

展着剤

10ml 【代替】ササラ2,000倍を使用してもよい

劇 バイスロイドEW

50ml（7日前、4回）

フリントフロアブル25

50ml（前日、4回）

ユニックス顆粒水和剤47

50g（14日前、4回）

散布量：10a当り 600㍓

対象病害虫：腐らん病、炭そ病、輪紋病、斑点落葉病、褐斑病、黒星病、

シンクイムシ類、ハマキムシ類、キンモンホソガ、ギンモンハモグリガ

注意事項

①【重要】バイスロイドEWは劇物登録薬剤です。ご購入の際は印鑑をご持参ください。

### 7月中下旬（定期）

\*目安：前回から15日以内

【7月中下 定期散布】

散布時期：7月15日～20日

散布日：7月 日

散布薬剤：水

100㍓

散布量： リットル

展着剤

10ml 【代替】ササラ2,000倍を使用してもよい。

ダニコングフロアブル

50ml（前日、1回）

キノンドー顆粒水和剤

100g（14日前、4回）

劇 オリオン水和剤40

100g（前日、2回）

オーソサイド水和剤80

125g（前日、6回）

散布量：10a当り 600㍓

対象病害虫：炭そ病、輪紋病、斑点落葉病、褐斑病

ハダニ類、シンクイムシ類、ハマキムシ類、カイガラムシ類

注意事項①【重要】オリオン水和剤は劇物登録薬剤です。ご購入の際は印鑑をご持参ください。

②【代替】キノンドー顆粒水和剤、オーソサイド水和剤80に代えて、オキシラン水和剤500倍（14日前、4回）でもよい。

裏面もご覧ください(新梢管理のポイント、殺ダニ剤の選択)

## ●新梢管理のポイント

樹体生育や着果量を観察し「新梢発生が多く、発生した新梢伸長が旺盛な場合」「新梢が込み合っていて薬剤が通らない場合」は実施する。

- ① 新梢管理は6～7月上旬までに一度実施する。7～8月は花芽分化・形成期に当たるため、この時期に葉を多く落とすと停止した芽（頂芽）が再伸長し、花芽分化が劣る。また、晩生種については9～10月の着色管理の時期にも実施する。
- ② 普通樹の骨格枝背面の徒長枝となりそうな新梢、長く伸長している新梢や冬季に切っておくべき枝を中心に切除する。骨格枝背面は全て切除すると骨格枝の日焼けを起こすため、適度に残すようにする。新梢を切りすぎないように注意する。
- ③ 徒長枝の切り取りは、できるだけ基部から行う。基部を残して切ると残った部分から新たに、多数の徒長枝が発生したり、腐らん病の侵入源となったりする。

## ●ハダニ類の防除、殺ダニ剤の選択について

○：効果ある    △：効果やや劣る    ×：効果ない

薬剤名	倍率	使用基準	使用回数	IRACコード	種類に対する効果		ステージに対する効果		
					リンゴハダニ	ナミハダニ	卵	幼若虫	成虫
カネマイトフロアブル	1000	7日前	1回	20	○	○	○	○	○
マイトコーネフロアブル	1000	前日	1回	20	○	○	△	○	○
オマイト水和剤	750	3日前	1回	12	○	○	○	○	○
コロマイト乳剤	1000	前日	1回	6	○	○	○	○	○
ダニゲッターフロアブル	2000	前日	1回	23	○	○	○	○	△
ダニサラバフロアブル	1000	前日	2回	25	○	○	○	○	○
ダニコングフロアブル	2000	前日	1回	25	○	○	○	○	○

### ① 殺ダニ剤ローテーションについて（予定）

- ◆ 7月中旬（7/15～20頃）：ダニコング F2,000 倍（中期的抑制効果あり・残効 14 日程度）
- ◆ 8月上旬（7/30～8/5頃）：コロマイト乳剤 1,000 倍（速効的・成虫に効果高い・残効短い）⇒散布ムラがないように
- ◆ 8月中旬（8/15～20頃）：オマイト水和剤 750 倍（成虫に効果あり・残効やや短い）⇒ダニ退治の締め

② ダニサラバ・スターマイト・ダニコングは同一薬剤系統である。抵抗性回避のため、いずれかを年1回のみ使用とする。

③ ダニゲッター（ダニサラバ）は成虫に対してやや遅効的効果を示す。散布7日後以降に効果が発現する。

	リンゴハダニ	ナミハダニ
越冬	リンゴ樹上の芽基部や皮のくぼみに産まれた卵で越冬	雌成虫が粗皮下や雑草等で越冬 越冬成虫はあざやかな朱色
春先	4月中旬から孵化を始め、開花直前には終了し、夏卵を産む	3月に入ると越冬場所から移動するが、りんご樹上では春先に多発することはない。
発生消長	6月中下旬から増加し、ピークは7月中旬～8月上旬で、その後ナミハダニが増加すると一時的に密度が低下する。	発生ピークは8月中下旬頃であるが、早い時期は7月下旬、遅い時期は10月になる場合があり変動は大きい。

果樹特報 No6 発行予定：7/17

- ◆ 8月上旬の散布
- ◆ 8月中下旬の散布